

250年以上も前に  
竹島を日本地図に描いた  
水戸の儒学者！

内閣  
官房  
領土・主権  
対策企画  
調整室



領土・主権展示館 特別展示

# いったい何者？ 江戸の地図男！

SEKISUI NAGAKUBO

# 長久保赤水展

2018.7.2 mon – 8.4 sat

【会場】市政会館 地下1階 入場無料

【開館時間】10:00~18:00 【休館日】土・日・祝(7月21日・8月4日は開館(11:00~17:00))

## 共催：長久保赤水顕彰会

協力：国土地理院、国立天文台 後援：茨城県、茨城県教育委員会、高萩市、高萩市教育委員会



●ギャラリー・トーク [開催日時] ①7月21日(土)、②8月4日(土)

●マンガ教室 [開催日時] ①8月1日(水)、②8月2日(木)

領土・主権展示館

NATIONAL MUSEUM OF  
TERRITORY AND SOVEREIGNTY

Tel/Fax 03-6257-3715

領土・主権展示館

内閣官房

共催：長久保赤水顕彰会

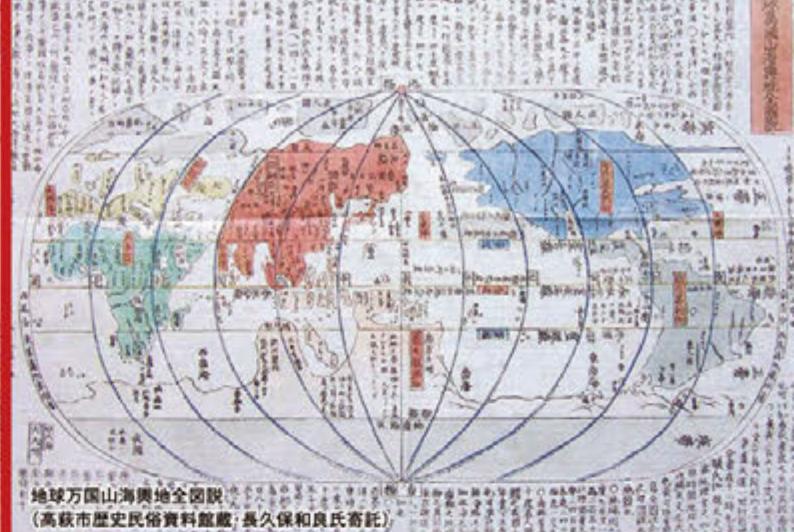
協力：国土地理院、国立天文台 後援：茨城県、茨城県教育委員会、高萩市、高萩市教育委員会

●ギャラリー・トーク [開催日時] ①7月21日(土)、②8月4日(土) ●マンガ教室 [開催日時] ①8月1日(水)、②8月2日(木)

領土・主権展示館

内閣官房

検索



領土・主権展示館 特別展示

# いったい何者？ 江戸の地図男！

ながくぼせきすい

# 長久保赤水展

2018.7.2 mon – 8.4 sat

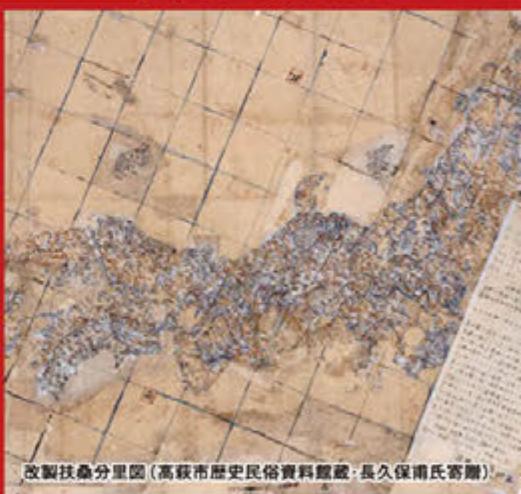
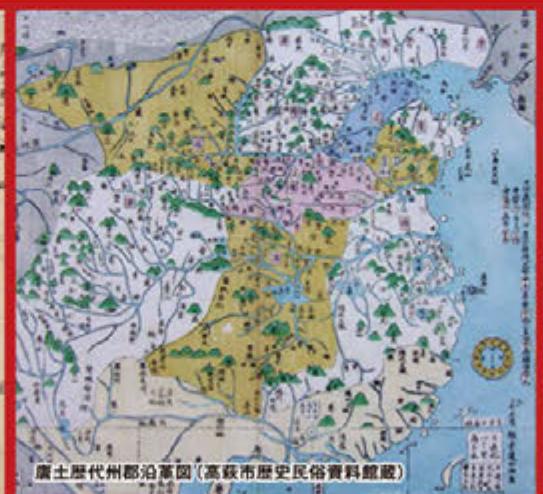
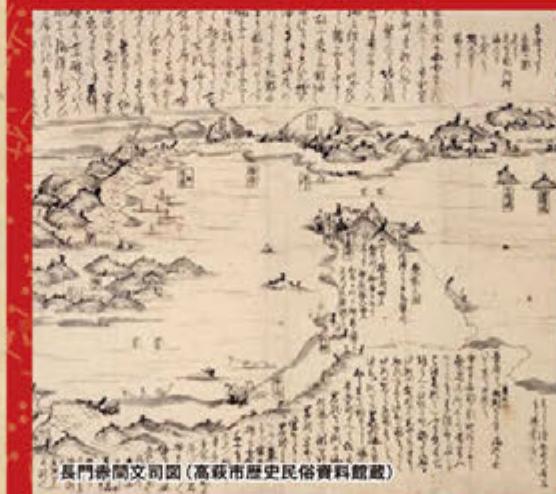
【会場】市政会館 地下1階 【開館時間】10:00~18:00

【休館日】土・日・祝(7月21日・8月4日は開館(11:00~17:00))

領土・主権展示館

NATIONAL MUSEUM OF  
TERRITORY AND SOVEREIGNTY

内閣  
官房  
領土・主権  
対策企画  
調整室





領土・主権展示館 特別展示

# いったい何者？江戸の地図男！

ながくぼせきすい

## 長久保赤水展

2018.7.2 mon – 8.4 sat

[会場] 市政会館 地下1階

[開館時間] 10:00 ~ 18:00

[休館日] 土・日・祝 (7月21日・8月4日は開館(11:00~17:00))

長赤水先生肖像(茨城県立図書館蔵)



福井照 領土問題担当大臣 ご挨拶

2018年7月2日（月）午前9時～



おはようございます。本日から、茨城県高萩市の長久保赤水顕彰会との全面的な連携のもと「領土・主権展示館」初の特別展示「いったい何者？江戸の地図男！長久保赤水展」を開催させていただきたいと思います。開催にあたりましては、高萩市教育委員会、国土地理院、国立天文台、茨城県、茨城県教育委員会、高萩市にご協力をいただきました。関係者の皆様には、この場をお借りして深く感謝申し上げたいと思います。

本展では、江戸時代中期の水戸藩の儒学者、地理学者、天文学者であり、日本地図に竹島を描いた長久保赤水を取り上げます。日本地図といえば、伊能忠敬を思い浮かべる方が多いと思いますけれども、忠敬が作った伊能図、日本地図は、幕府により秘蔵され、庶民の目には触れることはませんでした。これに対しまして赤水が作った赤水図は、江戸時代の大ベストセラーとなり、吉田松陰も愛用したといわれております。そして、この今から230年以上も前に作られた赤水図には、隠岐諸島の北西に現在の竹島、当時の古称は松島でございますけれども書かれており、日本が古くから竹島を知っていたことを示しております。本展では、赤水図の製作過程や赤水が作成したその他の地図や書物、約20点を紹介し、赤水の足跡を辿ります。歴史好き、地理好きの方々など、幅広い方々にお越しいただき、本展示が竹島問題をはじめとする領土・主権に関する国民世論の啓発に資することを期待いたしております。

最後に領土・主権の問題は、国の基本的な課題でありますけれども、世論調査の結果によれば、知る機会や考える機会がないため、竹島に関心がないという方も多くございます。領土問題担当大臣といたしまして、我が国の立場や主張についての正確な理解が浸透していく様子を強化するため、「領土・主権展示館」の展示内容や企画イベント等を充実させ、内外発信の強化に努めてまいります。皆様におかれましては、引き続き力強いご支援、ご協力、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げまして、ご挨拶に代えさせて頂きました。ありがとうございました。

## 実施報告書

### 長久保赤水顕彰会



## 佐川春久 長久保赤水顕彰会長 挨拶



福井照領土問題担当大臣(中央)  
と佐川会長(右)

皆さんおはようございます。ご紹介いただきました顕彰会の佐川です。今日はよろしくお願ひします。実は、私はあのすぐそばの築地生まれでして、築地小学校テリー伊藤と小学校の1年から6年まで、ずっと同じクラスで全く勉強しておりませんでしたが、今、茨城県高萩市の山の中に住んでおります。今、大臣の方からありましたように、今回、この会場で特別展を開催していただくことになりました。大臣をはじめ関係者の皆様に、大変、お世話になっております。心から深くお礼申し上げます。ぜひ、この機会に一人でも多くの方に足を運んでいただいて、ご覧いただければと思います。

長久保赤水は、水戸6代藩主治保公の侍講を務めています。侍講を英語訳するとフィロソファー、哲学者ということで、その範疇に入ります。儒学者とは殿様の傍らにいて、殿様に良い政治を行わせるという、学問を教えるだけでなく政策アドバイザー的な立場でございます。赤水自らも10数点の政策を提言して実現しています。そういう意味で、政治家でもありますし、天文学、地理学者、農政学者でもあります。赤水は、どうしたらわかり易いか、間違いないように、そういう情報の伝え方を常に工夫しております。ですから、今日あります初版と2版の間に、11年くらいの間に14、15回も版本をかえております。本当に、学者魂が垣間見えております。

昨年が2017年、生誕300年ですね。赤水は1717と覚えていただきます。今年が伊能忠敬没後200年の年です。亡くなった年は1818年。こちらは1818なのですね。で来年が、東京で国際地図学会が開かれます。世界中の学者が東京に来ますので、こういう展示館とか、伊能忠敬記念館、高萩市歴史民俗資料館のそういう資料をぜひ、この機会に見ていただきたいと、このように考えております。

先日、高萩市内で小学生が、テレビのインタビューに答えて「長久保赤水は街の誇りです」と言いました。私は、一人でも多くの日本の皆様に、「江戸時代に世界に通用した日本が世界に誇れる先人の一人だ」という事を、この機会に認識していただければと思っています。今回、日比谷でこの展示会が開かれたという事につきましては、私どもの顕彰活動にとっては、大きな第一歩だと思いますので、今後とも内閣官房の方々と連携を取りながら顕彰をしていければと考えております。大変、纏まりませんが、ご挨拶とさせていただきます。今日はありがとうございます。

## 福井照 領土問題担当大臣 インタビュー

Q 今回の展示館をご覧になった感想と、この先に向けた意気込みですか、展望をお聞かせいただけますでしょうか。

はい、ありがとうございます。あの伊能忠敬しか、実は知らなかつたことで、今回、勉強させていただきました。もと天涯孤独で、もと農業、農民で勉強して勉強して、そして、日本地図を作り上げたという赤水の遺徳に触れさせていただき、大変、光栄に思っております。

今、私たちがやらなくてはいけない事は、先ず、正確に知ることです。その前に真正面から自分の立ち位置を見つめるということだと思いますので、正確な地図、正確な位置、正確な歴史観、時代観を持つということが、今、一番、日本人にとって重要だという、その認識の中での今回の展示会でございますので、ぜひ、たくさんの方々にお越しいただいて、見ていただきたいと思います。

今、誰でも手にできる地図、正確な緯度、経度、或いは、道路、鉄道、多くの人の地図。当たり前ですけれど、これだけ苦労しなければ、正確には作れなかつた時代があつたのだ。そして、この明治維新を成し遂げた150年前、今年、明治150年ですけれども、維新のエネルギーというのは、この地図をもとに、赤水の地図をもとに、日本中を歩いて日本を知り、そして、世界の皆さんとお話をした。その事がきっかけとなつて、独立したという事でございますので、ぜひ、そういう意味でも、明治150年をかみしめる意味でも、ぜひ、この展示館を訪れて、感じていただければというふうに思っています。

Q 長久保赤水というと、領土問題もかなり大きな役割を期待されると思うのですけれども、今後、あらためて、この長久保赤水の業績を政府として世界へPRしていくか、浸透案をお聞かせください。

そうですね。この時代から自分で情報を集めて一人で日本の領土を確定したという事は、まさに、国として、もっともっと顕彰しないといけないと思います。

今回をきっかけに、この展示館だけでなく、もっと幅広く全国で近く見ていただくようなことも考えたいというふうに思っています。





**はじめに**

長久保赤水（水戸藩の儒学者。1717-1801）は、伊能忠敬の実測の日本地図「大日本沿海輿地図」（「伊能図」）の完成より40年以上前に、経緯線が投影された地図「改正日本輿地路程全図」を発刊しました。江戸後期、「伊能図」は秘蔵され、一般の目に触れるることはなかった一方で、赤水の地図は版を重ね、「赤水図」と呼ばれ、唯一信頼し得る地図の定番として、広く普及しました。

赤水図には隠岐諸島の北西に現在の竹島（当時の呼称は「松島」）が的確に記載されています。日本が古くから竹島の存在を認識していたことを示しています。

本展では、赤水図の作成過程や、赤水が作成したその他の地図や書物を紹介し、赤水の足跡を辿ります。

和暦(年)	西暦(年)	年齢	事柄
享保2	1717	1	赤水（源五兵衛）赤浜で誕生する
享保15	1730	14	この頃から鈴木玄津の塾に通い始める
宝暦元	1751	35	この頃から日本地図を書き始める 儒学を大成してから中国の天文学や地理学を学ぶ
宝暦10	1760	44	東奥（東北）の旅に出かける
明和4	1767	51	安南国（今のベトナム）に漂流した磯原村の船員を引取りに長崎行きの役目を命じられる
明和5	1768	52	緯度を書き込んだ日本地図の原図「改製扶桑（日本）分里図」が完成する
安永4	1775	59	「新制日本輿地路程全図」が完成する
安永6	1777	61	水戸藩主治保の侍講となり、江戸小石川の水戸藩邸に81歳まで住む
安永8	1779	63	「改正日本輿地路程全図」が完成する
安永9	1780	64	「改正日本輿地路程全図」が大阪で発行される
天明3	1783	67	中国地図「大清廣輿圖」が完成
天明5	1785	69	世界地図「改正地球萬國全図」が完成
寛政元	1789	73	「唐土歷代州郡沿革地図」が完成
寛政2	1790	74	藩主治保に従い、水戸に帰国し、郷里に戻る
寛政3	1791	75	藩主治保、北原の松月亭を訪れる 「改正日本輿地路程全図」第2版が完成する
寛政4	1792	76	「東奥紀行」を出版
享和元	1801	85	赤浜で永眠



# 1 改正日本輿地路程全図

赤水の代表作「改正日本輿地路程全図」は、北極出地の観測値（緯度測定値：水平線からの北極星の角度）、先人による地図や地誌、官製の国絵図※など、多くの資料をもとに編集された地図です。

「東奥紀行」、「長崎行役日記」に記された赤水自身の実体験や、多くの旅人や知人からの話も参考にし、20年以上の歳月をかけて作成されました。刊行日本図としては初めて経緯線と緯度の数値が記載されました。

伊能忠敬（1745～1818）は、赤水が測量せず「坐らにして地図を作成したのは非常に感心する」と述べています。

\*国絵図とは、江戸幕府が国土把握を目的として、諸大名の領地ごとではなく、律令制以来の国を単位として作成を命じた絵地図。



**天經或問 天**

高萩市歴史民俗資料館所蔵（長久保赤水顕彰会寄託）

明代末・清代初（16世紀末～17世紀初）の天文・地理書です。それまでの中国の天文書は暦の計算方法に主眼が置かれていたのに対して、本書は初步的ながらも西洋天文学に基づく天文学全般を教示した書物といわれています。

本書の右上の図には、赤水の書き込みで、「緯度」の文字や、朱筆で赤道や黄道、「經度即東西」などが記されています。



**飛騨国図**

高萩市歴史民俗資料館所蔵（複製 国土地理院）

赤水が飛騨国の国絵図を写したもので、タイトルの上に、「三郡二十四郷四百十四村、南北（虫損）十四里、東西二十五里、国中平陸少く、山連、峯聳（峰そびえ）朝日遅く出…」などと、赤水の手による多くの細かい朱筆や墨書きが見られます（右上には「赤水校正」の記載あり）。



**改製扶桑分里図**

高萩市歴史民俗資料館所蔵（複製 国土地理院）

代表作「改正日本輿地路程全図」の原図とされている、1768（明和5）年、赤水52歳の自筆日本図です。地図には縦と横の線が引かれ、横の線には緯度が書かれています。胡粉（白色顔料）などで修正した痕跡がいたるところに見られます。「竹島」（現在の鬱陵島）と「松島」（現在の竹島）の位置も隠岐諸島の北北西から北西に書き直しており、複数の資料を基に考証して記載されたと考えられています。

\*扶桑とは日本の別称。



**大日本疆域図**

高萩市歴史民俗資料館所蔵

1774(安永3)年、赤水58歳の頃、京都滞在中に模写した、作者不明の緯度測定値を示す図です。緯度測定値上に地名が記入されています。

36度より少し北側に「隠岐」の記載があり、島後(大きな丸)と島前(小さな丸二つ)が記されています。

赤水は、地図作りのため、天文歴学者・渋川春海(1639-1715)等の緯度測定値を利用したとされています。

**長門赤間文司図**

高萩市歴史民俗資料館所蔵(個人寄贈)

備中国岡田藩の旅行家・古川古松軒が描き、赤水に送り届けた絵地図です。1774(安永3)年、赤水58歳の時、上方(京都・大坂)に滞在し、学者・学僧と交遊を重ねた際、古松軒とも出会い、意気投合しました。後年、古松軒に大坂の版元へ詳細な指示事項を届けてもらったことも明らかになっています。赤水のもとへは、日本各地の人々から、様々な地図情報が寄せられました。



**改正日本輿地路程全図初版**

高萩市歴史民俗資料館所蔵(複製 国土地理院)

赤水の代表作とされる刊行日本図です。1779(安永8)年、赤水63歳の時に完成し、翌年、大坂の版元から発刊されました。刊行日本図としては初めて縮尺(1寸(約3cm)10里(約40km))を用い、經緯線を投影しています。少なくとも第5版まで版を重ね、模倣版や海賊版も多数発刊されました。

- 1 隠岐諸島の北西に「竹島」(現在の鬱陵島)と「松島」(現在の竹島)が描かれ、「竹島」に「竹島一云被竹島」「見高麗猶露州望隱州」とする表記があることを確認できます。
- 2 琉球(沖縄)方面の口永良部島には「是ヨリ南百二十里琉球國」とする表記が確認できます。
- 3 小笠原諸島方面の八丈島には「是ヨリ南百里有無人島曰小笠原島タテヨコ六七十里 シマ大小五六十」とする表記が確認できます。
- 4 松前藩が所在した渡島半島の一部が描かれていることが確認できます。

**じ が ぞう  
自画像**

高萩市歴史民俗資料館所蔵(パネル 国土地理院)

赤水の自画像です。1782(天明2)年、66歳の時、藩主治保から水戸徳川の葵の紋付の衣服を賜りました。

赤水は、1777(安永6)年、61歳の時、6代藩主治保の侍講(専属教師)となりました。推挙した水戸藩松岡領の郡奉行皆川教純は、「一農民学者が御殿に上るのは有史以来初めてのこと」と述べています。



**改正日本輿地路程全図第二版**

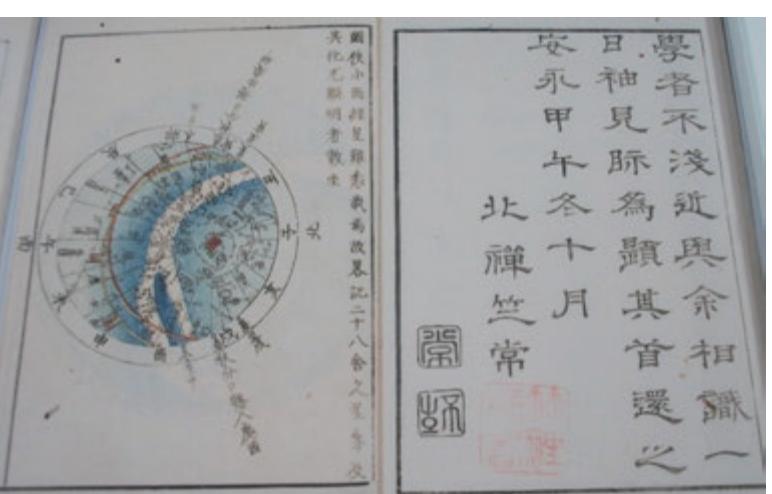
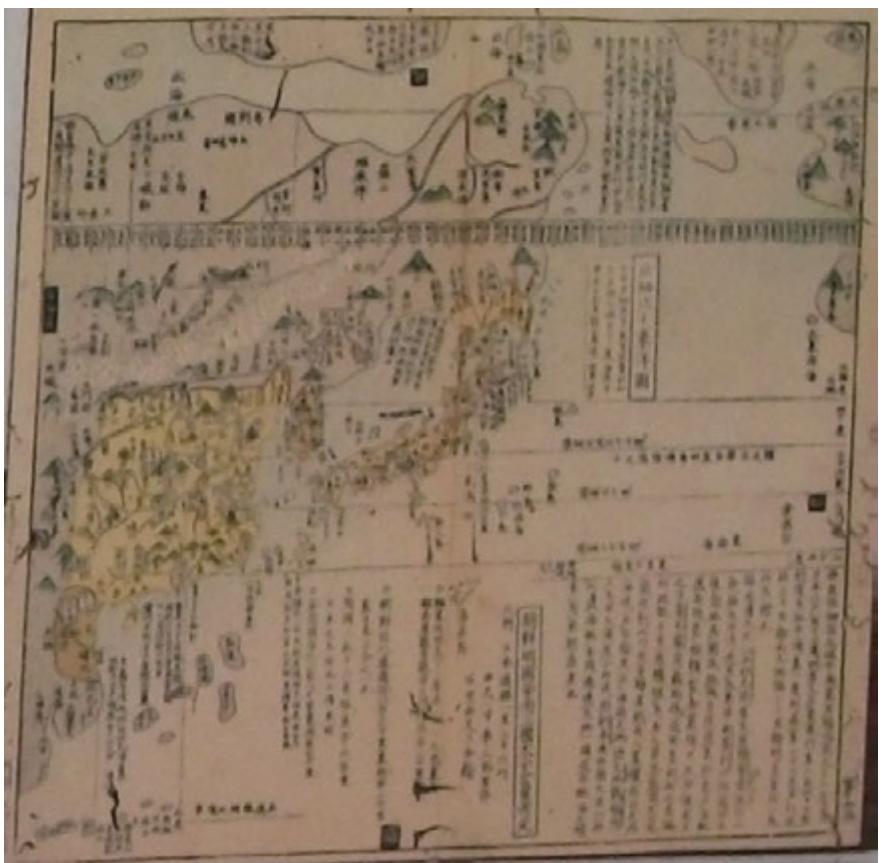
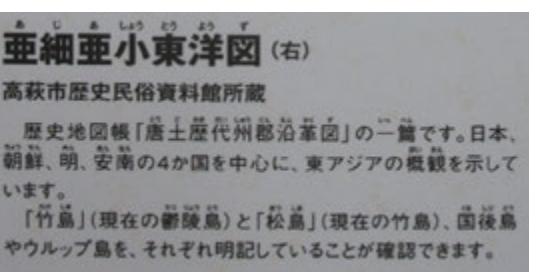
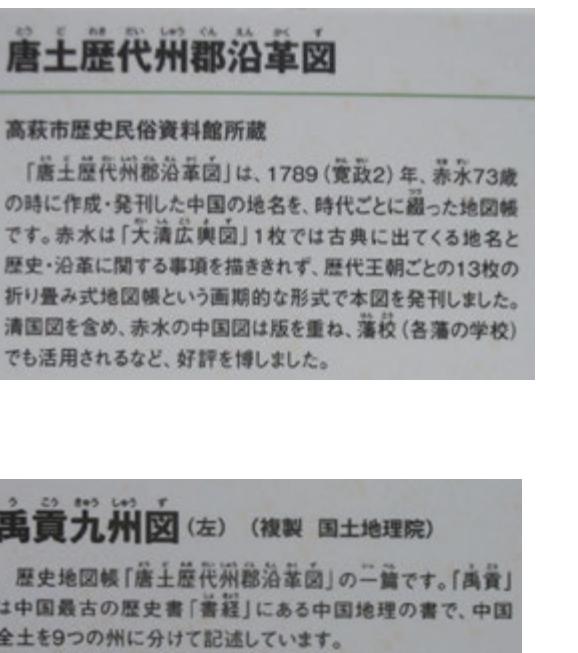
高萩市歴史民俗資料館所蔵(複製 国土地理院)

1791(寛政3)年、赤水75歳の時、地図作成の集大成として完成させた刊行日本図です。初版(1780(安永9)年発刊)との大きな違いとして海路や郡名の記入などが挙げられます。地名表記など情報量が飛躍的に増大しています。赤水は初版(安永版)とこの第二版(寛政版)を併せて15回以上の改訂を繰り返しています。地図の正確性を追求する並々ならぬ執念が感じられます。

赤水の清国図「大清広輿図」は、中国の天文・地理書「天經或問」における「經天合地」<sup>\*</sup>を意図した中国図や、明代・清代の官製地誌などの資料をもとに、編集された地図です。地図といつても、中国の古典に登場する地名やその土地の歴史・沿革についても盛り込まれています。

中国歴史地図帳「唐土歴代州郡沿革図」では、「大清広輿図」をもとに、夏王朝から明王朝の末まで12枚、東アジアの概観を示す図が作成されています。シーボルトはその著書「日本」(1840年)において、日本における中国文学・歴史研究を語る中で、「唐土歴代州郡沿革図」を絶賛しています。

\*緯度と経度の意味。この地図に経緯線はありませんが、左右の枠に緯度、上の枠に経度が記されています。



鎖国日本にも世界の動きが迫ってきます。「地球万国山海輿地全図説」は、中国に滞在していたイタリア人宣教師マテオリッチが、1602(慶長7)年に北京で出版した「坤輿万国全図」(坤輿とは、大地を大きな輿にたとえた語)や原目貞清の「輿地図」をもとに、赤水が監修した世界地図です。「坤輿万国全図」と比べると、蝦夷から千島列島に連なる部分などを描き改められているとされています。



地球万国山海輿地全図説

高萩市歴史民俗資料館所蔵（個人寄託）

赤水が監修した刊行世界図です。幕府の蝦夷地探索経験者から情報を得て、蝦夷から千島列島に連なる部分などが書き改められているとされています。

本図には、地図の緯度に沿る天文學的な説明や大陸、海の名前、民族などについて、平易な文体で記述があります。赤水の名前により、幕末にいたまで、広く受け入れられ、多くの複数版や複数版が発刊されました。



地球万国山海輿地全図説

高萩市歴史民俗資料館所蔵（長久保赤水顕彰会寄託）  
(複製 国土地理院)

赤水が監修した刊行世界図の小型の海賊版です。平易な文体と図で人気を博しました。



個人所蔵

赤水が作成した、現在の北海道、樺太、北方四島（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）、千島列島が描かれている図です。本図は、幕府の蝦夷地探索経験者から情報を得て作成されたと言われており、ロシアの千島列島への南下について記されています。また、ロシアの地理、天文学、単位、太陽暦、ウルツブ島、樺太などについての詳細な記述とともに、天文学が発達しているロシアと比べて「悲哉我住者、天学ノ事ヲ知ラズ」と記しています。

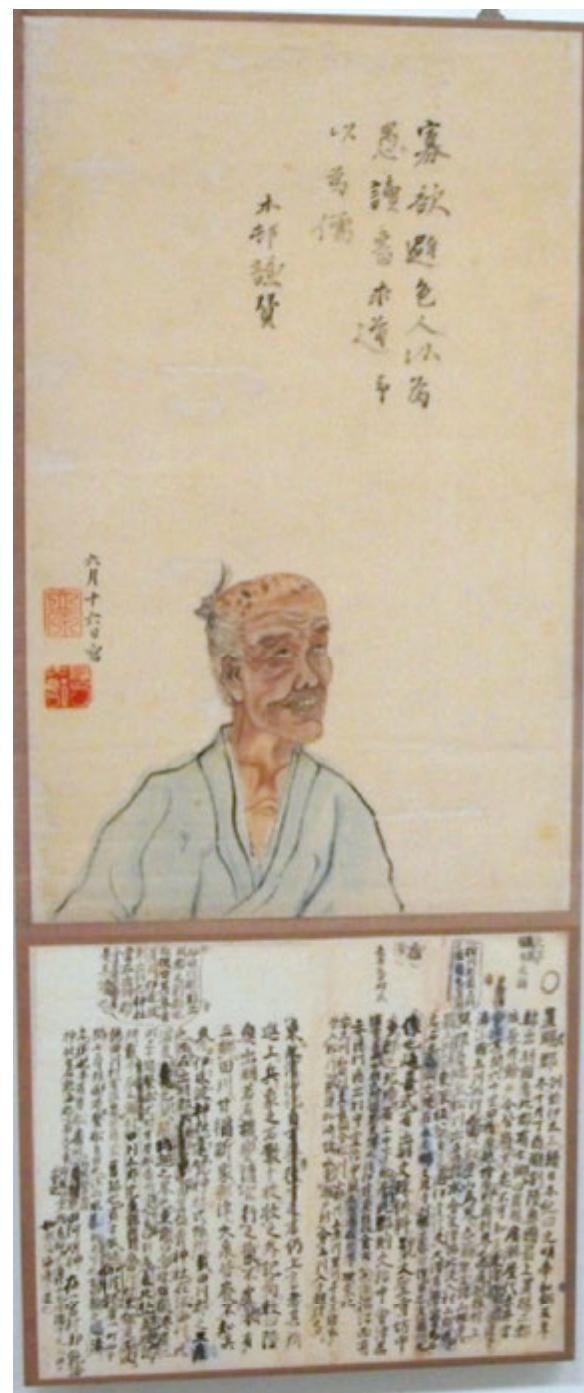
←にある表記の翻刻（□は判読が困難である字）

ウルツブ島赤人改名ヲ□□ナツサト□ト云。エトロウ島ノ丑寅ニ当リ海行十余里ニアリ、周辺百里ニ足ラズ、蝦夷ノ家ナシ、猿虎を猿スル時、エトロウ、クナシリ、アッケシ辺ノ蝦夷愛ニ来テ饭に居ルノミ、然ルニ近年赤人ト云異国人愛ニ来テ、專猿虎ヲトル。

ウルツブ島ヨリムササッケ海上凡二百里余ノ間ニ寓シ、古ハ蝦夷ニ本蝦夷アッケシノ齒筋イコトイカ祖、猿業ノ為ニカムサッケニ到り、多ノ獸魚ヲ得テ、肉ヲ乾テ貯ヘ来ルヲ以テ、地ヲ肉干（カンサッケ）ト号シタルヨシ、然ルニ彼ノ島、イソトナク赤人ニ属シ、地名ヲ改□レ家ウルツブ島ノ猿虎ヲモ、赤人猿スト、アッケシノ西筋はラナゲキ、エトロフ島ノ蝦夷ハ、今猶予（疑いためらう）シテ去就ヲ不決矣。雖然、元來、エトロウ島ハアッケシノ齒筋イコトイカ配下ナルニヨリ、容易ニ赤人ニ屬スル事ヲ、イコトイ不許と云。以下略。

## 大日本史地理志

江戸時代、全国的に史書・地誌の編纂が進みました。その代表的なものが、水戸藩の長年の事業であり、2代藩主徳川光圀がはじめた「大日本史」の編纂です。6代藩主治保は、1786(天明6)年、隠居格になった70歳の赤水に対し、大日本史地理志編纂を命じます。赤水は、息子たちに宛て、「『地理志』は私が一命を懸けて、お殿様御直の御仰せを守り、(中略)たとえ夕べに死んでも、その朝迄は『地理志』の筆を取りて、死ぬる事は本望である」と書いています。赤水は、彰考館總裁立原翠軒の説得を受け、81歳の時、赤浜に帰り、1801(享和元)年7月23日、85歳で亡くなりました。その10日後にあたる8月3日、伊能忠敬の第2次測量隊が赤浜を通過しました。伊能忠敬は、「赤浜村、長赤水の出し村なり。」とその日の測量日記に記しています。



長赤水先生肖像と  
大日本史地理志篇原稿

茨城県立図書館所蔵

立原杏所（画家・立原翠軒の長男）が翠軒宅で描いた赤水の肖像画です。本史料には赤水自筆の大日本史原稿が付けられています。

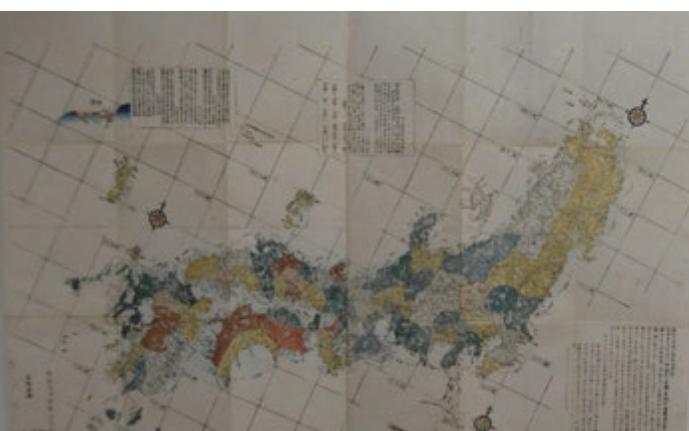
※「大日本史」は、明治時代に入って、彰考館の栗田寛博士による「地理志」校訂などを経て、1906(明治39)年に完成了。赤水は、大日本史の地理志編纂の功により、1911(明治44)年、明治政府から従四位を追贈されました。



赤水は1801(享和元)年に亡くなりますが、没後も徳川斉昭をはじめ歴代藩主が赤浜の遺邸を訪ねるなど深く敬愛されました。

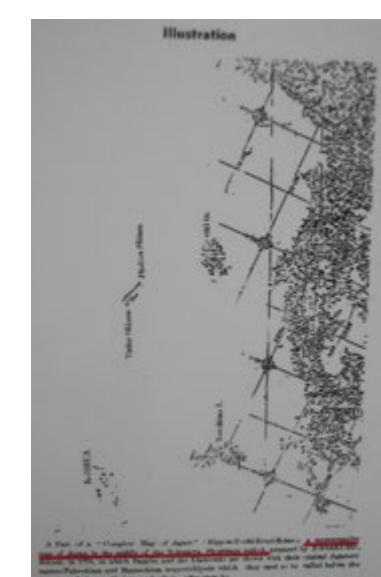
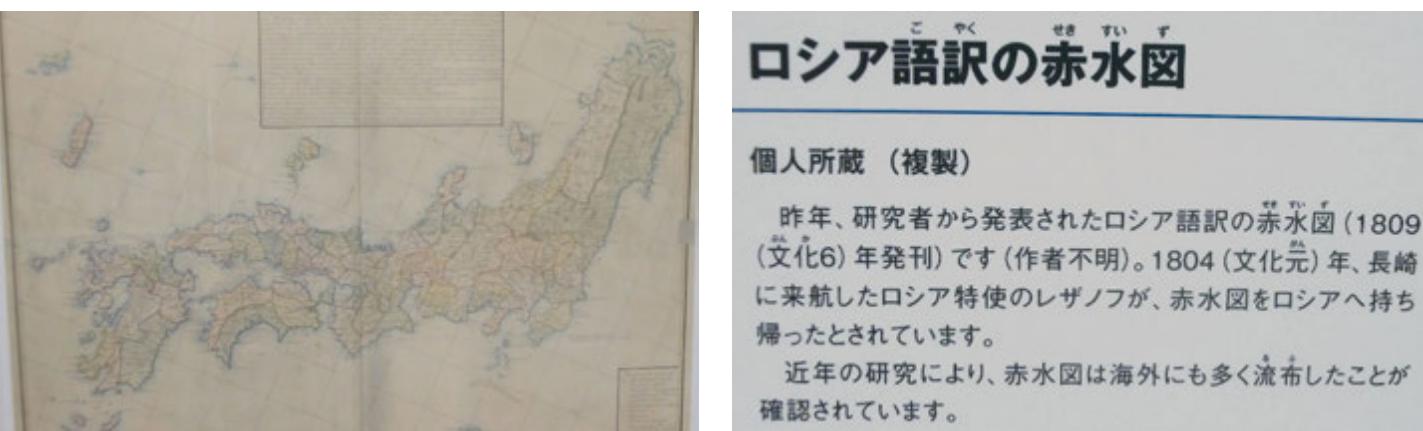
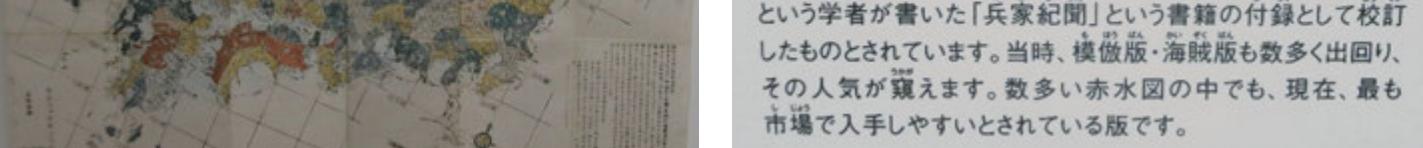
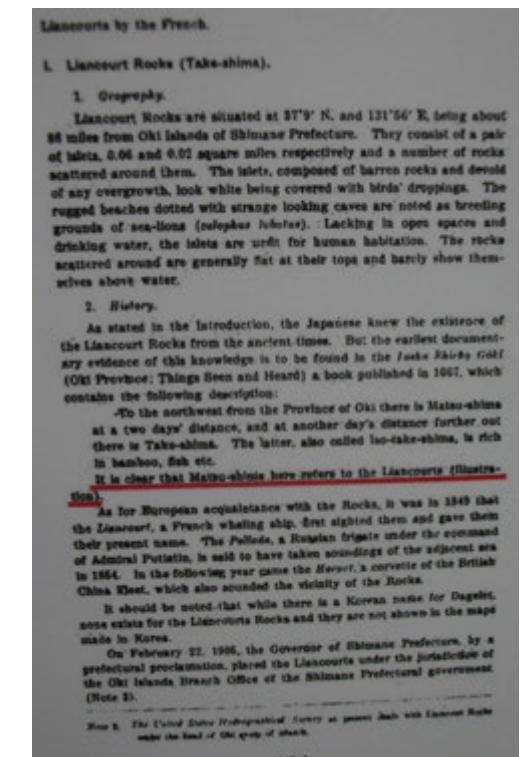
赤水の地図はその情報量と正確さから広く普及し、赤水図と呼ばれ、庶民を中心に幅広い層に愛用されました。またヨーロッパなど海外にも相当数持ち出されています。

携帯性に配慮して小型化されたものもあります。折り畳んで持ち運びできる、まさに江戸時代のトラベルマップでした。吉田松陰も「これがなくては不自由」と380文(現在の価格で約4560円、1文約12円換算)で買い求めたと記されています。



戦後、日本政府が来るべき講和に向け準備をする一環として作成した文書の中に、竹島に関する英文説明資料があり、その補強証拠として、赤水図が添付されています。

その後も、竹島問題についての日本政府の立場を説明する資料の一つとして扱われてきています。



## 竹島に関する英文説明資料 (1947年外務省作成)

### 国会図書館蔵

1947(昭和22)年外務省が作成した領土に関する英文説明資料の第4部第2章「日本海の諸小島」で竹島が取り上げられています。松島(現在の竹島)がリアンクール(竹島の洋名)であることは図から明らかであり、ダジュレ(鬱陵島の洋名)には朝鮮名があるがリアンクール岩ではなく、また、松島(現在の竹島)は朝鮮で作成された地図に描かれていないことに注目すべき、云々としています。「改正日本輿地路程全図」(部分図)は巻末に図として添付され、「江戸時代中期の代表的な地図」として紹介されています。

領土・主権展示館の常設展示(本会場の向い)でも、「改正日本輿地路程全図

初版」(高精細画像による複製)を展示しております。あわせて、常設展示もご覧ください。展示をご覧の上、アンケートに回答頂いた方には、「マンガ長久保赤水物語」を贈呈いたします(数に限りがあります)。

### おわりに

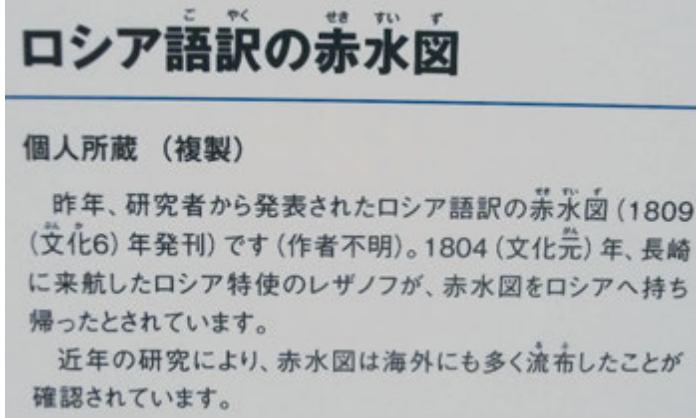
赤水は、逆境を乗り越え、主君や家族、師友と深い絆を結び、生涯を通じて勉学に励みました。赤水の生き方は、私たちに学ぶことの意味を教えてくれます。

今を生きる子供たち大人たちが、赤水の生き方から少しでも学んでいただけるよう、教育・啓発活動などにより一層取り組んで参ります。

長久保赤水顕彰会

本展を通じて、ご来場の皆様が、赤水の地図に親しみ、日本の領土・領域について関心を持つきっかけになりましたら、幸いです。

内閣官房領土・主権対策企画調整室





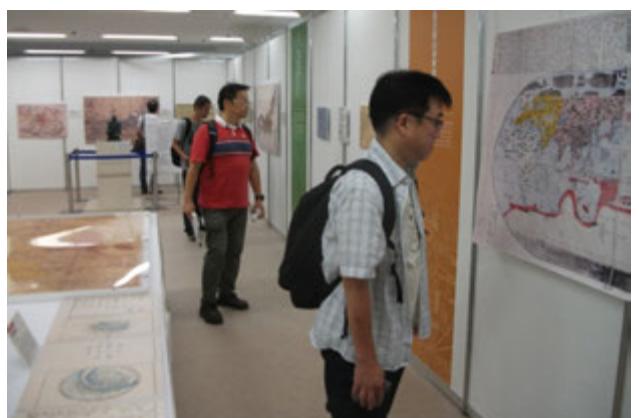
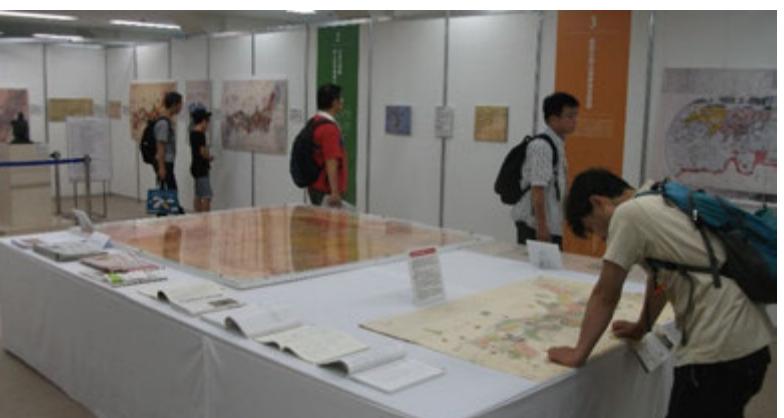
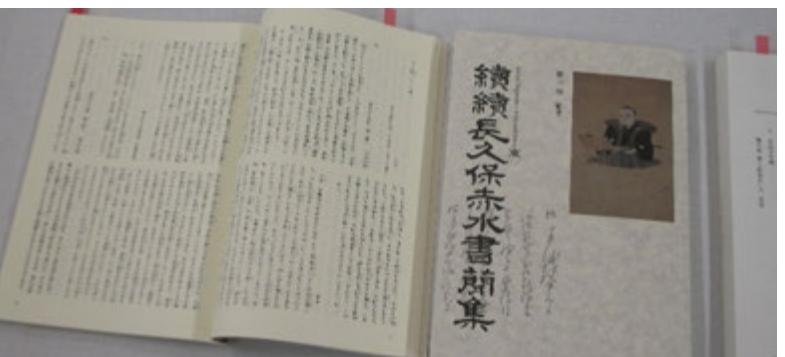
## 赤水図に触れてみよう!

現在の地図に必ずある「凡例」もすでに見ることができます。太い線は国境、細い線は道路、□は城下町、○は名所、△は古城・古戦場、●は湊など、十種類の記号が用いられています。「陣屋」(屋敷のこと)や「関所」といった江戸時代ならではのものもあります。

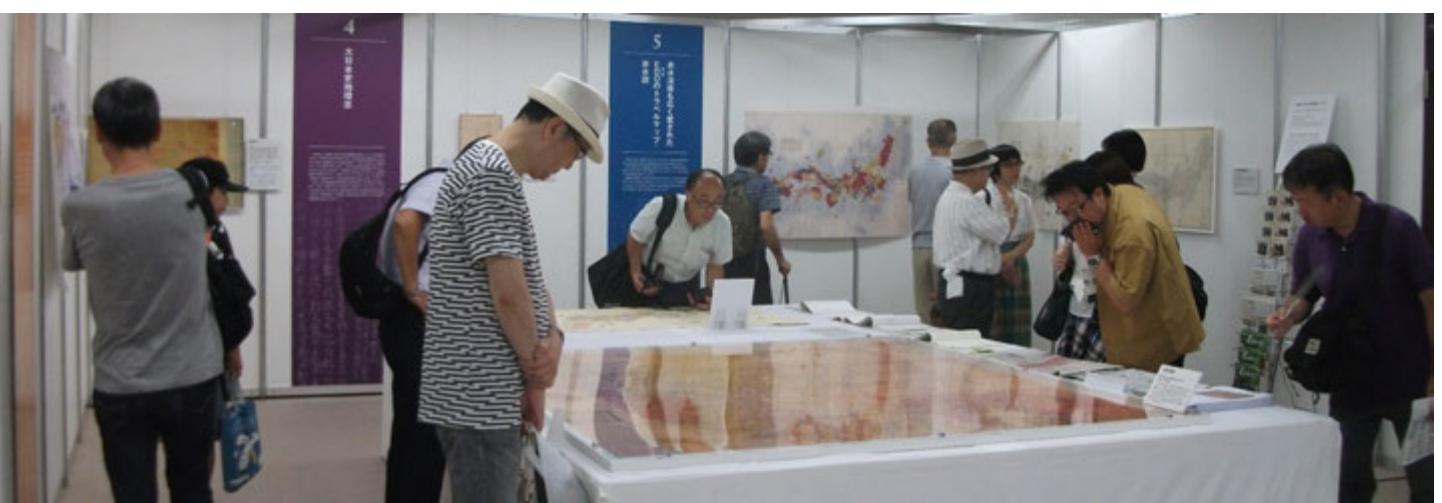
10里(約40km)を1寸(約3cm)としていることから、約129万6千分の1の縮図であることがわかります。

緯線と緯度が記入されており、経線も描かれていますが、経度は記入されていません。この当時は、経度測定値がなかったため、記入できなかったものと思われます。しかし、凡例で赤水は「日輪一時(今の2時間)の間は(経度-地球1周で360度-で)三十度の違いあり、薩奥国と長崎辺の間は約一時間の差があり。」と書いているので、経度についても十分な知識があったことがわかります。

西洋風の方位磁針が日本列島の周りに配置されており、地図を飾るみごとな装飾となっています。これは、大航海時代にポルトガルで制作された「ポルトガル海図」を参考にした影響であろうと考えられています。



会場には、多くの見学者をはじめ、あかま二郎副大臣や山下雄平政務官、外務省関係者、ヨルダンからの記者なども訪れました。



## 政策アドバイザーも

赤水は江戸時代中期の水戸藩の儒学者、

地理学者、天文学者、農政学者です。赤水は、

水戸六代藩主、徳川治保公の侍講を勤めて

います。侍講を英語訳すると「フィロソファー」、

哲学者の範疇に入ります。儒学者とは殿様

の傍らにいて、学問を教えるだけでなく、殿

様に良い政治を行わせるという、今でいう政

策アドバイザー的な立場でもありました。赤

水自らも十数点

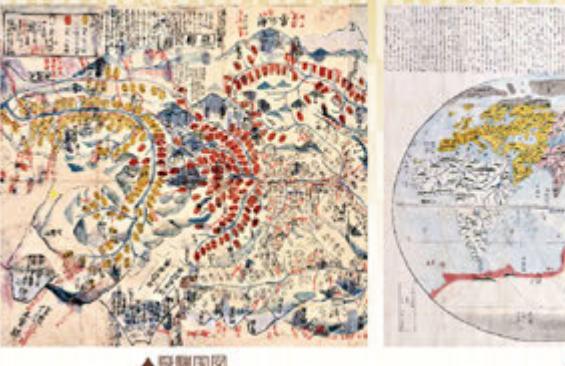
の政策を提言し

て、実現しています。そういう意味では、政治家で

もありました。

藤田東湖の父、幽谷を神童藤田と全国の著名人ばかりが中国人にまで吹聴し、将来を期待し教育しています。儒学の教え子高橋又一郎広備とともに、のちの彰考館總裁に育て上げました。光園公がはじめた水戸学を、藤田幽谷・東湖などに繋ぐ役割を赤水は果たしています。

**赤水図が『竹島』の日本領土確定資料になる**



▲飛騨国

▲地球万国山海輿地全圖



▲あかま二郎副大臣や山下雄平政務官、外務省関係者、ヨルダンからの記者も訪れた



▲水戸藩主から贈った  
絵を贈た自画像

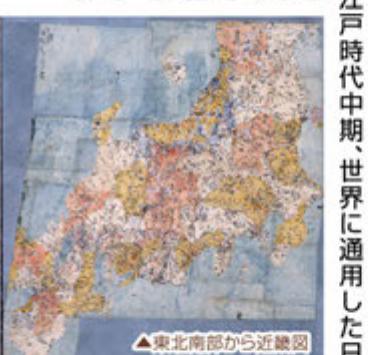
ン・フランス・スコット・平和条約締結時には、49か国が署名・調印して、竹島などの島々の日本領土確定資料として、赤水図が役に立ちました。来年、東京で国際地図学会が開催され、世界中の学者が東京に来ます。伊能忠敬記念館と高萩市歴史民俗資料館のオブショナルツアーや関係者に呼びかけ、長久保赤水関係資料をこの機会に見ていただきたいと思います。



▲赤水図に描かれた竹島

## 世界に通用した日本が誇れる先人、長久保赤水

長久保赤水は、明治44年6月1日に、日本地図や大日本史地理志稿編纂などの功績で、従四位下を贈られました。時の内閣総理大臣は、桂太郎でした。松平昭訓、貝原益軒、堀保己、桂川甫周、大槻玄澤、柴野彦輔などと並んで、長久保源五兵衛（赤水）の名前があります。この時の追贈者は全部で13名でした。



▲東北南部から近畿図

先日、高萩市内で小学生が、アド街ック天国のインタビューに答えて「長久保赤水は街の誇りです」と言いました。今後一人でも多くの人に、江戸時代中期、世界に通用した日本が誇れる人一人ひとりを、この機会に認識していただければと思っています。

赤水図の初版と二版の約11年間に14、15回も版本をかえて印刷。まさに近代的自我を確立した学者魂も垣間見ることができます。現在、世界6か国で44枚の赤水図が発見されています。また最近、ロシア語訳の赤水図も見つかりました。

太平洋戦争後、米国は当初、竹島などの島々を日本の領土と明確に認識していましたが、外務省は1947年にGHQに

対して赤水図を添付して提出。この結果、サ

## 全国赤水ウォーク! 東京大会2018参加者募集中!

- ◆ 開催日時 9月29日(土)(小雨決行)
- ◆ 集合場所 日比谷公園かもめの広場集合、スタート10時30分
- ◆ 募集人員 100名(葉書で事前申込)
- ◆ 参加費 300円(当日受付へ)
- ◆ コース 御三家の一つ水戸の6代藩主徳川治保公の侍講を務めた赤水ゆかりの地巡り約8km

- ◆ 所要時間(約4時間)
- ①日比谷公園かもめの広場②市政会館「領土・主権展示館」の長久保赤水資料を見学③皇居(江戸城)④小石川後楽園庭園(水戸藩上屋敷)⑤東京大学農学部(水戸藩中屋敷)「朱舜水」終焉之地の碑⑥その他隅田公園(水戸藩下屋敷)自由歩行約12km

## 長久保赤水顕彰会の会員募集中 ご寄付もお願いします

- ◆ 会員募集 年会費3千円
- ◆ ご寄付 1口1万円(何口でも結構です。なお、ご寄付をおこなった方には、「續長久保赤水書簡集」現代語訳の冊子にご芳名・金額を掲載の上、お送りいたします。)
- ◆ 振込口座 郵便局振込口座記号番号00380-6-9573 加入者名:長久保赤水顕彰会
- ◆ お問い合わせ先 090-1846-6849 佐川春久まで。

<http://nagakubosekisui.org/>

長久保赤水顕彰会では、多くの皆様方のお力を借りながら、活動を続けていきたいと考えております。ご協力をよろしくお願いいたします。

## 吉田松陰も絶賛! EDOのトラベルマップ「赤水図」

江戸時代の庶民にとって日本地図とは、伊能忠敬が作った「伊能図」ではなく、実は長久保赤水が作った「赤水図」であったことはあまり知られていません。

長久保赤水は、約300年前の1717(享保2)年、現在の茨城県高萩市に生を受けました。赤水は長年考証を重ね、1779(安永8)年、63歳の時、「改正日本輿地路程全圖」(赤水図)を完成させました。



楽しいマンガ教室も開催されました。



# 飛耳長目

長久保赤水顕彰会会報 第二十八号

平成三十年六月二十四日

## 長久保赤水顕彰会と「領土・主権展示館」が共催、特別展を開催！

目的：江戸時代の代表的な日本地図「改正日本輿地路程全図」と、その制作者である水戸藩の地理学者・長久保赤水についてより深く理解することにより、我が国の領土・領域の範囲、竹島問題に関する国民世論の啓発を図る。

協力：国土地理院、国立天文台

後援：茨城県、茨城県教育委員会、高萩市、高萩市教育委員会

期日：平成30年7月2日（月）から8月4日（土）開館時間：10時から18時 休館日：土・日・祝日（但し7月21日・8月4日は開館します。11時から17時）

場所：千代田区日比谷公園1-3市政会館内地下1階 特別会場（領土・主権展示館向い）

主な展示資料：

- ・赤水銅像
- ・改正日本輿地路程全図初版
- ・天經惑問
- ・飛驒國図
- ・改製扶桑分里図
- ・大日本疆域図
- ・天文星象図解
- ・長門赤間文司図
- ・自画像
- ・改正日本輿地路程全図第2版
- ・大清廣輿図
- ・唐土歴代州郡沿革地図
- ・地球万国山海輿地全図
- ・蝦夷之図
- ・長赤水先生肖像と大日本史地理志原稿
- ・改正日本輿地路程全図第3版
- ・改正日本輿地路程全図弘化3年版
- ・ロシア語訳の赤水図
- ・竹島に関する英文説明資料（1947年外務省作成）
- ・長久保赤水書簡集など

### イベント情報：

- ・ギャラリートーク 7月21日（土）、8月4日（土）14:00～  
長久保赤水顕彰会 佐川春久会長
- ・マンガ教室 8月1日（水）、8月2日（木）14:00～  
夏休みこども向け企画：マンガ長久保赤水の生涯・マンガ長久保赤水の一生を執筆した  
漫画家…黒沢貴子氏、原康隆氏

### 長久保赤水顕彰会の会員募集とご寄付のお願い

- 会員募集：年会費三千円 ●ご寄付：一口一万円（何口でも結構です。なお、『續續長久保赤水書簡集』現代語訳の冊子にご芳名・金額を掲載の上、ご送付いたします。） ●振込口座：郵便局振込口座記号番号 00380-6-9573 加入者名 長久保赤水顕彰会
- お問い合わせ先：090-1846-6849 佐川春久まで。

長久保赤水顕彰会では、多くの皆様方のお力を借りながら、活動を続けていきたいと考えております。●学ぼう赤水を 教科書に載せて 広げよう世界へ●「ひよっこ」の次は、大河ドラマ『長久保赤水伝』を実現しよう！！●駅前に「蝦夷の図」を追加掲示しよう●『續續長久保赤水書簡集』現代語訳の出版●長久保赤水関係資料の国的重要文化財を目指します。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



▲大清廣輿図(中国地図)を説明する

【特別寄稿】長久保赤水顕彰会 会長 佐川 春久(高萩市大能・69歳)

▲福井照領土問題担当大臣(中央)と佐川会長(右)

高萩市出身、江戸時代の地理学者 長久保赤水 を終えて

●「いittai何者? 江戸の地図男! 長久保赤水展」

●東京で赤水の功績を紹介

●さらに全国へ

●長久保赤水顕彰会と内閣官房「領土・主権展示館」の連携事業、特別展示「いittai何者? 江戸の地図男! -長久保赤水展」が、7月2日(月)から8月4日(土)まで千代田区日比谷公園内の市政会館で開催。赤水資料23点が展示され、約1300人が見学に訪れました。

●初日のオープニングセレモニーで、一緒にテープカットをした福井照領土問題担当大臣は、「天涯孤獨で、もと農民で勉強して勉強して、そして日本地図を作り上げたという赤水の遺徳に触れて、大変光栄に思っています。この時代から自分で情報を集めて一人で日本の領土を確定したという事は、まさに国としてもつともっと顕彰しないといけないと思います。今回をきっかけに、この展示館だけでなく、さらに幅広く全国で見ていただくようなことも考えたいと思っています」と言されました。また、次のようにも言われました。

●初めて経緯線の入った日本地図を発刊し大衆化

●日本地図といえば伊能忠敬を思い浮かべる人が多いのですが、伊能図は幕府により秘蔵され、実は江戸時代には庶民の目には触れることはなかったのです。これに対して長久保赤水の赤水図は、江戸時代末期までの約百年の大ベストセラーとなり、吉田松陰も愛用したといわれています。今年がちょうど、明治維新から150年です。維新のエネルギーは、この赤水図をもとに生れたともいえます」と。

●明治維新のエネルギーを起爆させた赤水図

●赤水は地図に天文学の知識を取り入れ、赤水は地図に天文学の知識を取り入れ、

●伊能忠敬も赤水図を測量にも携帯

●伊能忠敬は幕府の命令で日本地図を製作している。人間に話して「私は諸州を歩き回って実測で地図を作っているが、非常に難しいと感じる。水戸の長久保赤水が居ながらにして地図を作れたことには、非常に感心する」と言った。さらに「江戸日記」や「測量日記三」に「忠敬も赤水図を所持しており、測量にも携帯して

●小宮山楓軒の「懷宝日札」には、「伊能忠敬は幕府の命令で日本地図を製作している。人によると押し寄せて来た時に、日本を救ったのが赤水図なのです。浦賀にペリー艦隊が来た時も、伊能図は江戸幕府の秘図のため、ごく限られた幕府要人しか見ることができず、明治初年まで一般人は利用できませんでした。このため、萩の松下軒など幅広い交遊関係があつたので、正確で詳細な地図が作れたのです。

## 『マンガ長久保赤水物語』の感想文を募集中

懸賞金  
10万円

●募集要項

◆応募資格

年齢・職業・国籍・性別・住所など一切不問

◆応募方法及び提出先

原稿用紙に感想文(800字以内)と氏名・生年月日・年齢・職業(学校名)・住所を明記してご送付ください。

郵送先 〒318-0103 茨城県高萩市大能341

長久保赤水顕彰会「マンガ長久保赤水物語」感想文係(長久保赤水顕彰会会長 佐川春久)

◆応募締切

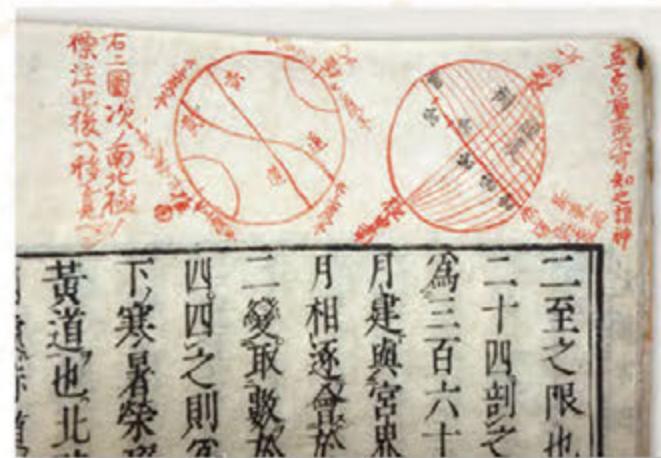
平成31年1月31日(木)消印有効

最優秀作品には、賞金10万円を贈呈いたします。なお、最優秀作品賞受賞者は、長久保赤水顕彰事業のために3万円のご寄附をお願いいたします。その他の優秀賞10点には、記念品を贈呈いたします。

詳しくは、<http://nagakubosekisui.org/>を参照。



# いったい何者？江戸の地図男！ 長久保赤水展



天経或問 天(高萩市歴史民俗資料館蔵)

## 国際人の先駆け、長久保赤水

馬場 章(ばば あきら)

学校法人滋慶学園グループ 名誉教育顧問、東京大学元教授

現在、ドイツ、オランダ、イギリスの各地に分かれて伝来するシーボルトの膨大な日本コレクション。それらのなかから複数の「赤水図」を発見した時の感動は、20年以上経った今でも鮮明だ。「赤水図」が江戸時代のアメリカ、フランス、ロシア政府にも渡って、日本に関する貴重な情報源となっていたことも判明した。「鎖国」と呼ばれる時代に赤水自身は海外に渡ることはなかった。しかし、赤水は、彼が製作した日本地図を通じて、確かに国際人だったのだ。



自画像(高萩市歴史民俗資料館所蔵)

## イベント情報

## ギャラリートーク

【日時】平成30年 ①7月21日(土)、②8月4日(土)  
【講師】佐川春久 氏(長久保赤水顕彰会会長)  
【参加費】無料 【参加方法】当日受付

## マンガ教室

【日時】平成30年 ①8月1日(水)、②8月2日(木)  
【講師】マンガ「長久保赤水物語」作者 黒澤 貞子 氏、原 康隆 氏  
【対象】小学校3年生以上 【参加費】無料 【参加方法】事前申込制  
※詳しくは、領土・主権展示館のホームページをご覧下さい。

## 領土・主権展示館

NATIONAL MUSEUM OF  
TERRITORY AND SOVEREIGNTY

〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-3  
市政会館地下1階 TEL/FAX 03-6257-3715 領土・主権展示館 検索

●都営地下鉄三田線「内幸町」下車(A7)出口より徒歩2分 ●東京メトロ丸の内線「霞ヶ関」下車(B2)出口より徒歩4分 ●東京メトロ千代田線「霞ヶ関」下車(C1)出口より徒歩3分 ●東京メトロ千代田線又は日比谷線「日比谷」下車(A14)出口より徒歩3分

江戸時代の庶民にとっての日本地図とは、伊能忠敬が作った「伊能図」ではなく、実は長久保赤水(ながくぼせきすい)が作った「赤水図(せきすいず)」であったことはあまり知られていません。

長久保赤水は、約300年前の1717(享保2)年、現在の茨城県高萩市に生を受けました。赤水は、長年考証を重ね、1779(安永8)年、63歳の時、「改正日本輿地路程全圖」(赤水図)を完成させました。本展では、赤水図の作成過程や、赤水が作成したその他の地図や書物を紹介し、赤水の足跡を辿ります。

## 吉田松陰も絶賛！

## 江戸

## EDOのトラベルマップ「赤水図」



## 長久保赤水顕彰会の書籍と切手 好評発売中

長久保赤水書簡集  
続長久保赤水書簡集 各1,000円(税別)マンガ長久保赤水の一生  
マンガ長久保赤水の生涯 各1,000円(税別)

オリジナルフレーム切手(1シート) 1,300円



マンガ長久保赤水物語 500円

## お申し込み先：長久保赤水顕彰会

090-1846-6849までお電話ください。

## 領土・主権展示館 特別展 いったい何者？江戸の地理男！長久保赤水展 実施報告書

平成30年9月10日

発行=長久保赤水顕彰会 〒318-0103 茨城県高萩市大能341 佐川春久 電話0293-28-0405  
印刷=ふじえだ印刷 〒318-0031 茨城県高萩市春日町1-18 電話0293-22-2103

非売品